

## 第1回懇談会・現場視察意見と回答について

## 【治水】

意見	回答	備考
上流部の整備において、「ボトルネック地点の局部改良」が、今回どのように変わるのか。	局部的な改良ではなく、赤生津大橋から冠橋までの一連区間において、河川改修を進めていく。	
内水対策について、雨水貯留の重要性の考え方を関係機関と協力して進めるべき。	平成27年関東・東北豪雨や、令和元年の台風第19号の被害を考慮し、「近年の降雨状況を踏まえた今後の治水対策の検討会」を立ち上げ、関係機関と調整しながら内水貯留対策を検討していく。	
(現場視察) 新堰下流部の堆積土砂は撤去すべき。	流下能力を阻害している箇所であるので、上流部の河川整備の中で優先的に実施していく。	P1
(現場視察) 今宮堰、新堰については、流下能力や維持管理コストを考慮すると、統合が望ましい。	関係機関（仙台市、仙台泉土地改良区、宮城県農政部等）と協議し、統廃合を検討していく。	

## 【利水】

堰の水利権は全て慣行水利権か。	七北田川の堰の水利権は、10件中、法定水利権が3件、慣行水利権が7件となっている。梅田川の堰の水利権は、5件全て慣行水利権となっている。	P2,3
-----------------	--	------

## 【環境】

「シギ・チドリ類の中継地」は、「シギ・チドリ類の集団飛来地」に修正すべき。	ご指摘のとおり「集団飛来地」に改めます。	
梅田川にも農業用取水堰があるが、現在は殆ど使われていない堰である。堰で鮭の遡上が阻害されるため、遡上環境の改善が望まれる。	堰の取水実態を調査した上で、今後堰の廃止や統合を検討していく。	

【環境】

意見	回答	備考
魚道整備を希望する。	魚道が整備されていない堰の管理者に対して、魚道設置を促すよう調整を進めていく。	
環境に関するデータ収集方法は。	水辺の国勢調査を定期的実施して、情報を収集している。	
「生態系の保全に配慮しながら人と自然のふれあいの場としての整備」の具体的な整備内容を聞きたい。	生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全し、水辺に近づける憩いの場としての親水空間の創出を想定している。	
(現場視察) 河道を掘削する際には、できるだけ既存の植生を残すよう工夫して欲しい。	植生を残すように、工夫して工事を進める。	

【河川管理】

管理が国と県に分かれているような河川において、住民参加の活動等はどのようなものがあるか。	住民参加の制度として、国では「河川協力団体」、宮城県では「河川愛護団体」と「みやぎスマイルリバー・プログラム（アダプト制度）」がある。	P4
宮城県の住民参加制度は、全川一体、あるいは地域別の活動なのか。	地域別に活動している。	P5,6,7
今回の整備計画対象エリアで活動している団体・組織はどういったものがあるか。	上流部の整備計画対象エリアで活動している団体はないことを確認した。	
土砂堆積や樹木の繁茂により、流下能力が低下している箇所の把握の方法は。	定期的な河川パトロールにて、流下能力の阻害状況を監視している。	

【その他】

潜穴が築造されている地域であるので、何処に存在するか等、認識して欲しい。	改修区間外であることを現地視察時に確認した。	P8
(現場視察) 長命橋の利用者はどの程度なのか。	利用者は日平均で約200人程度。 (仙台市ヒアリング)	